

<第1分科会>

障害の重度・重複化に応じた指導について

広島県特別支援学校教育研究会第1グループ

重度・重複障害のある幼児児童生徒の発達段階に応じた自立活動の改善・充実

～肢体不自由(運動障害)のある生徒等のアセスメントの活用を通して～

1 はじめに

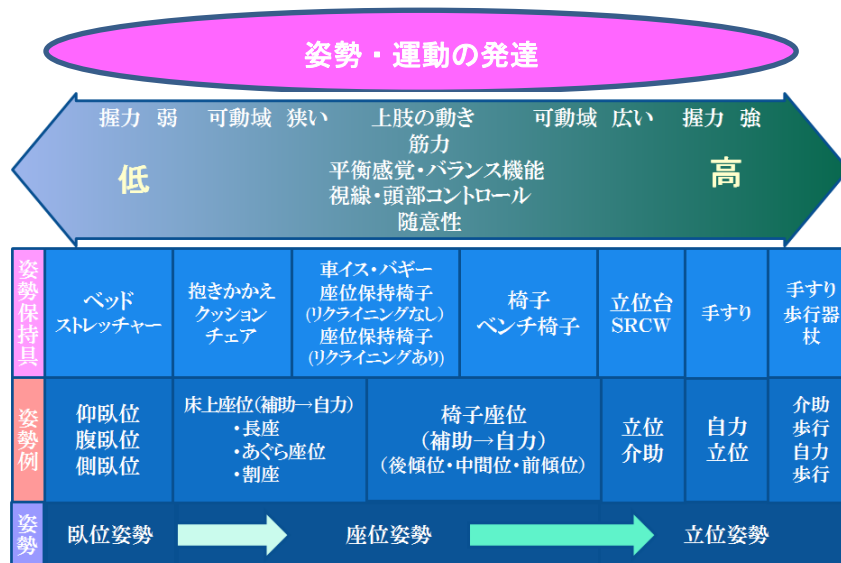
自立活動の指導は、個々の幼児児童生徒の障害の状態や発達の段階等に即して行うことが基本である。重度・重複障害のある幼児児童生徒は、障害の状態や発達の段階が多様であり、発達の諸側面にも不均衡が大きい。そこで、系統的な指導を展開していくために、多様な実態の幼児児童生徒を特定の観点から考察し、個に応じた指導法を検討することで、幼児児童生徒の発達段階に応じた自立活動の指導を改善・充実させることができると考え、研究を進めることとした。

2 研究仮説

「発達段階に応じた姿勢・運動の観点を踏まえて目標・指導方法・評価を協議することで、自立活動の指導の改善が進めば、幼児児童生徒の変容が現れるだろう。」

3 研究方法及び内容

「肢体不自由(運動障害)のある生徒等のためのアセスメント」「姿勢能力発達レベル・評価表」(脳性まひ児の24時間姿勢ケア)を活用して実態把握を行い、授業を計画・実施する。その後、幼児児童生徒それぞれの発達段階に応じた姿勢・運動の観点から、ビデオによる授業分析・研究協議を行う。



参考文献：脳性まひ児の24時間姿勢ケア

4 研究のまとめ

【成果】

- 発達段階に応じた姿勢・運動の観点を踏まえて、ビデオ分析を行いながら指導を行ったことで幼児児童生徒に変容がみられた。

【課題】～指導の軸をもつための専門性向上に必要なこと～

- 姿勢や運動についての専門知識を蓄積し、アセスメントの精度を高めること。
- 健康状態の変化やそれに伴う能力の状態を見極めて、その時の実態に最も適した目標や課題を設定できること。
- 目指す幼児児童生徒像に近付くための道筋を具体化するために、目標や支援方法を段階的にきめ細かく設定すること。